



# 研究者紹介 私の研究

人類  
研究部

人類史研究グループ  
さかうえ かずひろ

坂上 和弘 研究主幹

『骨は口ほどに物を言い』



国立科学博物館

「私はヒトの骨が大好きです」。こう自己紹介すると、多くの人は足のニオイを嗅がされたような顔をします。しかし、先入観なくじっくり人骨を観察した経験があるでしょうか？

人骨にはその人が生きていた時の情報、例えば顔つき、性別、亡くなったときの年齢など、が刻み込まれています。私は、これらの情報から、その人の生き様や当時の社会状況や文化を復元することを研究目的としています。そのため、縄文時代人骨から警察で扱っている現代の白骨死体まで幅広く取り扱っています。

骨は口ほどに

これまで多くの人骨を見てきましたが、ひとりとして同じ形の骨を持つ人はいません。ただ、一人ひとりとは違っていても、「時代」や「地域」などグループごとの個性が見えてくる場合もあります。

物を  
言い

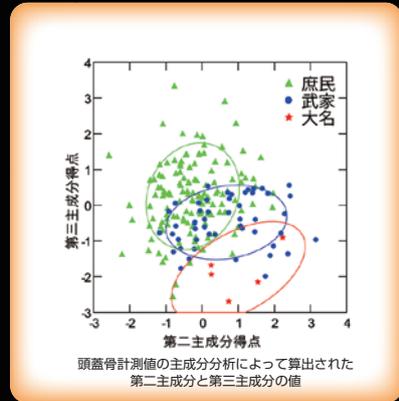


江戸時代  
「庶民」



江戸時代  
「武家」

写真と標本は江戸時代人男性の頭蓋骨です。計測値を統計処理したグラフを見ると、「庶民」や「武家」といった社会的な立場によって分布が異なります。両グループを比べると、顔の細さやあごの骨（下顎骨）がずいぶん違うことから、食生活や生活習慣など違うことが原因と考えられます。来春（2013年）に当館の企画展「江戸人展」で、人骨からどんなことがわかるのかを展示いたしますので、ぜひご覧ください。



## | 研究員に聞いてみました！

- 1) 専門は何ですか？  
自然人類学が専門で、ホモサピエンス以降の骨やミイラを研究しています。
- 2) 研究者になろうと思ったきっかけは何ですか？  
成年生まれだからです(笑)。小さな頃から骨に興味がありました。
- 3) 最近の研究活動で、最も興味深かった出来事は何ですか？  
古代エジプト人のミイラの特徴が興味深かったです。
- 4) 研究者になりたい方に一言アドバイス！  
研究対象を大好きになってください。



人類研究部